

平成29年度研究推進支援プロジェクト研究成果報告書

1. 研究の概要

プロジェクト名	幼稚園・小学校での家庭教育支援のためのニーズ調査と理論構成		
プロジェクト期間	2017年5月～2018年2月		
申請代表者 (所属講座等)	小泉 令三 (教職実践講座)	共同研究者 (所属講座等)	なし
取組方法・取組実績の概要	<p>【ニーズ調査】 調査対象者：小中学校等の教員32名と幼稚園教員12名 調査方法：個人面接（半構造化面接）および質問紙調査 調査内容：保護者との関わり（個人面談、小グループや学級での懇談など）の中で、保護者への助言や情報提供によって、家庭での子育て支援につながった事項 結果：回答（記述、口頭での回答）を内容のまとまりによって区分したところ、小中学校等教員からは146、そして幼稚園教員からは94の記述が得られた。</p> <p>【理論構成】 方法・結果：幼稚園、小学校、中学校での面談や懇談のうちに、学級担任等が保護者を対象に実施できる家庭教育支援のプログラム「保護者のための社会性と情動の学習」(Social and Emotional Learning of 8 Abilities for Parents: 以下、SEL-8P)プログラムの構成案を、小中学生対象のSEL-8Sプログラム(小泉, 2011)や幼児対象のSEL-8Nプログラム(小泉・山田, 2018)と同様に、8つの社会的能力の枠組みを用いて構成した。</p>		
研究成果の概要	<p>1. SEL-8Pプログラムで育成を図る8つの社会的能力の枠組みを提案した。</p> <p>①自己への気づき：自分の感情に気づき、また自己の養育力について現実的で根拠のある評価をする力</p> <p>②他者への気づき：子どもや家族等の感情を理解し、彼らの立場に立つことができるとともに、多様な感じ方や考え方があることを認め、良好な関係をもつことができる力</p> <p>③自己のコントロール：物事を適切に処理できるように情動をコントロールし、挫折や失敗を乗り越え、また妥協による一時的な満足にとどまることなく、目標を達成できるように一生懸命取り組む力</p> <p>④対人関係：子どもや家族等との関係において情動を効果的に処理し、協力的で相互に援助し合えるような健全で価値のある関係を築き、維持する力</p> <p>⑤責任ある意思決定：子どもや家族等を尊重し、関連する全ての要因と、いろいろな選択肢を選んだ場合に予想される結果を十分に考慮し、意思決定を行うとともに、自己の決定については責任をもつ力</p> <p>⑥生活上の問題防止のスキル：子どもや自分、そして家族等の心身の健康を維持・管理し、病気やけがを予防するとともに、社会規範を守った生活が送れるようにする力</p> <p>⑦人生の重要事態に対処する能力：子どもや家族等の環境変化（進級、進学、転校、転職、転居等）に対処し、家庭生活の課題解決と困難克服の力</p> <p>⑧積極的、貢献的な奉仕活動：身近な他者への援助に関するボランティア精神の保持と奉仕活動実践の力</p> <p>2. 上記の8つの社会的能力の枠組みにしたがって、ニーズ調査の結果をもとに、幼稚園・小学校・中学校用に合計76のユニットを構成し、本学紀要に研究論文として発表した。</p>		
外部資金獲得申請及び研究成果の公表方法等について〔 <input type="checkbox"/> （該当事項）にチェック方願います。〕			
外部資金獲得申請（予定）	<input checked="" type="checkbox"/> 科学研究費補助金 <input type="checkbox"/> 受託研究費 <input type="checkbox"/> その他 ()	研究成果の公表方法（予定）	<input type="checkbox"/> 学会（国内・国外）： <input type="checkbox"/> 新聞・図書・雑誌論文等： <input checked="" type="checkbox"/> その他：福岡教育大学紀要